

(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校						
①学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ・行事や体験活動等の実施の際に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。						
②生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ・毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。						
③教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。 ・適時的に訓練を実施し、危機管理マニュアルの理解と改善を行う。						
		質問内容	判定		R4 中間	
教職員	①	学校教育目標を達成するための教育活動を実践している。 (目指す姿を達成するための教育活動を実践している。)	A	92.3%	A	100.0%
	③	生徒の様子の小さな変化にも気付くように意識している。	A	92.3%	A	100.0%
	④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	92.3%	A	93.3%
	⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	A	92.3%	A	100.0%
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	B	84.6%	A	93.3%
生徒	B3	学校へ行くのは楽しいと思う。	B	79.8%	A	88.7%
	B4	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	96.5%	A	99.2%
保護者	①	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	B	83.5%	A	93.7%
	②	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	A	96.2%	A	97.8%
	③	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	A	88.6%	A	92.6%
	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	91.1%	A	100.0%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	91.1%	A	95.8%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

○生徒の変化を見逃さないようにアンテナを高くして日頃から生徒に接し、気になることは教職員で共有するようにしている。毎朝の「心の健康観察」や学校生活アンケート、いじめアンケートやQ-U（学級の分析ツール）などにより個々の生徒の現状を把握し、いじめや不登校の未然防止にも努めている。学期に1回、教育相談を行い、希望した教員やスクールカウンセラーと面談することで、悩みを話しやすくするなど、相談環境を工夫して行うことができた。

△地震想定や不審者対策の避難訓練、救急法・AED講習会、性被害防止教室、薬物乱用防止教室等を実施し、生徒の危機察知・回避能力を育成するための取組を行っている。生徒一人一人が自分事として問題を捉え、どう行動すべきかを考え自己決定する力をさらに高める必要がある。

△学校として、関係生徒・保護者との面談・連絡を取り合い現状の共通理解に努め、いじめや不登校の早期発見・早期対応を行っている。未然防止の視点から「学校が楽しい」と全ての生徒が感じられるように、毎日の教育活動や学校行事等の機会を生かして、居場所づくりや絆づくりの取組を進める必要がある。

(参考 いじめ認知件数 2件 不登校生徒数 6人)

【心の健康観察 回答画面】



【不審者対策避難訓練】



【救急法・AED講習会】



【性被害防止教室】



【薬物乱用防止教室】



(2) 生徒の確かな学びを保障する学校

- ①生徒一人一台端末を積極的に活用し、GIGAスクール構想の実現に努める。
 ・積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。
- ②主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。
 ・生きて働く知識・技能の習得を確かなものにする。
 ・生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。
- ③体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科等横断的な学びを推進する。
 ・体験活動等の目的やねらいを明確にし、活動後にその成果を実感させる。

		質問内容	判定		R4 中間	
教 職 員	②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	B	75.0%	A	86.6%
	⑨	授業で、思考を伴うアウトプットができる場面を設定している。	A	100.0%	-	-
	⑩	授業で、生徒は思考を伴うアウトプットをしている。	A	100.0%	-	-
	⑪	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	B	75.0%	B	73.3%
	⑫	自然や日常生活、社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	A	91.7%	A	86.6%
	⑬	指導者として意図をもって、授業で一人一台端末を活用している。(授業では、生徒一人一台端末を積極的に活用している。)	A	91.7%	A	86.6%
	⑭	体験学習・総合的な学習の時間で、教科横断的な学びを関連づけている。	B	83.3%	A	93.3%
	⑮	授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	100.0%	A	93.3%
	⑰	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	C	66.7%	B	80.0%
生 徒	A1	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	89.5%	A	92.7%
	A2	授業では、ペアや全体に対して伝えたり、発表したりする場面がある。	A	90.4%	A	92.7%
	A3	授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	95.6%	A	95.2%
	A4	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	98.2%	A	97.6%
	A5	授業では、自分の考えを他の人に伝えたり、書いたりすることができていると思う。	A	86.0%	A	87.1%
	A6	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	A	88.6%	A	85.5%
	A7	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	A	96.5%	A	99.2%
	B5	家の人と学校の出来事や将来のことについて話をする。	B	76.3%	-	-
B6	携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている。	B	83.3%	-	-	
保 護 者	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	73.4%	A	85.1%
	⑨	お子さんは、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている。	C	55.2%	-	-
	⑩	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノ（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	D	46.8%	C	65.9%
	⑪	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	B	77.2%	C	66.0%
	お子さんは、毎日1時間以上の家庭学習をしている。	-	-	C	66.0%	
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

(3) 教師の研修意欲が高い学校

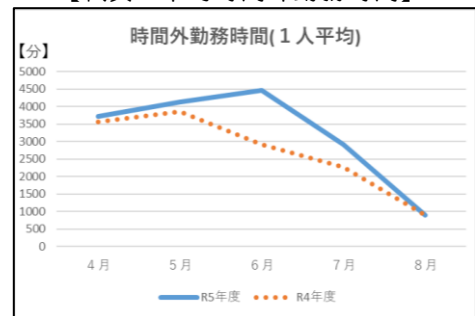
- ①ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。
・校務支援システムを活用して業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。
- ②人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。
・学校生活の中での教師や生徒の言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整える。
- ③日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。
・報告・協議事項は事前に起案し、校務支援システム等で周知する。

		質問内容	判定		R4 中間	
教職員	⑯	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	A	91.7%	A	93.3%
	⑰	学校生活の中で言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整えている。	A	100.0%	-	-
	⑱	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	B	84.6%	A	93.3%
	⑳	日常的に共通理解やコミュニケーションを図るようにしている。	B	84.6%	-	-
	㉑	報告・協議事項は、全員に周知されている。	B	84.6%	B	73.3%
生徒	B1	自分にはよいところがあると思う。	B	78.9%	B	80.6%
生徒	B2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	A	87.7%	A	93.5%
保護者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	91.1%	A	100.0%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	91.1%	A	95.8%
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	73.4%	A	85.1%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

【考察・改善】

- ◎言語環境を整えることについて、教職員の意識は高まっている。今後も人権感覚を高くして言語環境を整えていくことで、適切な言葉遣いへの生徒の意識を高めていく。
- 校内授業研究会を計画的に実施し、生徒の学びの姿から指導法を工夫・改善するようにしている。授業の自己チェック等を通して、確実な共通実践につなげている。2学期は共通実践の質の向上に取り組んでいく。
- △生徒や保護者への対応、部活動後の授業準備・校務業務などに時間が必要となったり、休日の部活動の時間が加わったりすることで、時間外勤務時間が多くなっている現状である。4、5月は、昨年度と比較して80時間を超える時間外勤務の職員は減っていたのだが、6、7月には昨年度より多くなっている。今後も校務の効率化を進めていき、20時までに退校するように取り組んでいく。
- △日々の学校生活、授業や行事などで生徒一人一人が活躍する場を確保しているが、さらに、生徒一人一人を褒め、認める声かけを多くし、自己肯定感を高められるようにしていく必要がある。また、学校行事では生徒が主役となって活動を進められるようにして、達成感や充実感が得られるようにしていく。

【職員の平均時間外勤務時間】



【校内球技大会】



【生徒集会】



【体育祭応援練習】



(4) 地域社会の一員として信頼される学校

- ①学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。
・月2回以上、学校HPを更新する。
- ②学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。
・学校評価結果を学校HPで公開し、改善の為の具体的な取組を推進する。
- ③地域人材や施設を積極的に活用し、ふるさと教育の推進と郷土愛の醸成を図る。
・各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。

		質問内容	判定		R4 中間	
教職員	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	C	53.8%	D	46.7%
	②②	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。	C	69.2%	D	46.7%
	②③	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	A	92.3%	A	86.7%
生徒	B10	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	B	79.8%	-	-
保護者	①①	教職員は、保護者との連携を密にしている。	A	91.1%	A	95.7%
	①②	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	A	83.5%	A	93.6%
判定基準		A(肯定回答85%以上)、B(70%以上)、C(50%以上)、D(50%未満)				

【考察・改善】

○地域社会の一員として信頼される学校となるように、学校便り・ホームページを通して、日々の教育活動が伝わるような情報発信に努めている。また、生徒の気になる様子についても保護者との連絡を密に行い、連携を図るようにしている。

△地域の人材・教材を取り入れた授業については、昨年度より肯定的回答が増加している。町内の様々な施設の見学や体験、地域の方々を講師とする学習活動を充実させてきている。また、地域の事業所の方々の協力を得て、町内2・3カ所で職場体験活動の実施もおこなった。今後、生徒の地域への関心が高まるように、各教科等でも地域人材や教材を活用していきたい。

△生徒のあいさつや返事については、昨年度に引き続き課題である。今年度は、生徒会の生活委員会が朝のあいさつ運動を行っている。教職員からの働きかけだけでなく、生徒会委員会とも連携して、元気にあいさつができるように根気良く取り組む必要がある。

【能都中学校ホームページ】



【能登海洋水産センター見学】



【のと海洋ふれあいセンター見学・体験】



【出前ものづくり講座】



【紙漉き体験】



【職場体験】

